

特報!! オープン目前の施設内部を見る 幕張ベイタウン・コア



念願の施設がようやくできる。「幕張ベイタウン・コア」。図書館と公民館と学童保育施設(子どもルーム)の複合施設だ。ベイタウン住民の声にも耳を傾けながら計画を練るという作業を始めてから、足かけ5年。第一段階の整備を終える。施設を管理するのは千葉市。計画から建設に至るまでを担当した千葉県企業庁から施設を無償で譲り受ける。目玉は、公民館とは思えない空間の大きさと造りを備えたホール。ベイタウン在住の音楽好

きの願いが実を結んだ。屋外に気軽に出入れるガラス張りのアトリウムも、開放感あふれる造りが気持ちいい。雑誌架ごしに中庭を見下ろせる図書館、子どもルームに向かうピロティ、と居心地いい空間がほかにあちこちに見受けられる。ベイタウンニュース編集局では開館記念イベントの始まる3月23日を前に、ニュース特派「子ども記者」とともにコアの見どころを取材した。

【記事：茂木・写真：佐藤】



①正面に見える円筒形の建物は、1階に子どもルーム、2階に図書館が入る。エントランスを入るとすぐ図書館に向かう階段が。右手は中庭。②公民館のホール。天井高は平均10メートルくらい。③ホールの壁は音響効果を考えて、でこぼこの仕上げに。④屋外の木製デッキ。右手は、入ってすぐのアトリウムに、左手は公民館の調理室につながる。



ベイトウン子ども
も記者が行く

「今日も行こうかな」と思える施設に

計画・設計段階では参画の機会を得られなかった子どもたちは、自分たちも使うことになるだろうこの施設をどう見たか。打瀬小学校で2月16日に実施した地域交流特別クラブ「ベイトウンこどもニュースを作ろう」を受講してくれた子どもを中心に記者を募集し、コアの中を一巡りした後、座談会を開き、その結果を最年長の太田佳織さん（中3）がまとめた。

コアには工夫されている部分が多く見られた。例えばホール前の廊下。「ただの廊下じゃつまらない」という考えにより絵の展示をするコアギャラリーになっている。ホール内にもたくさんのしかけがある。音の調整をするカーテンや上下するステージ。

コアを一周した後、座談会が開かれた。コアの中の施設で、「オープンしたら利用したい場所」や「ここの施設はこんなふうに利用したい」などを小学生達と話し合った。図書館のトイレに小学生の人气が集まった。他にも屋上やホールも人气があった。

コアは家から近いので気軽に利用することが出来る。開放的な空間なので中にいても外にいても気持ちがいい。「今日も行こうかな」と誰もが思えるような施設になることを私達は望む。「はやくオープンしないかな」。そう考えながらも今日もコアの前を通りすぎる。



①



③



④



②

①右手に新聞・雑誌架、左手に書架が並ぶ。窓際の雑誌架はおとなの胸くらいの高さなので、ガラス越しに中庭を見下ろすこともできる。ガラス張りなので、明るく、暖かい。天井の照明は機械室でよく用いるシステムを使って、コスト削減を図った。②小さな子ども用の絵本が並ぶ幼児室。③④トイレは乳幼児と一緒にでも使いやすいうように、専用の便器やシートも。洗浄器具を備えているので、人工肛門利用者でも使えるという。



①



②



③

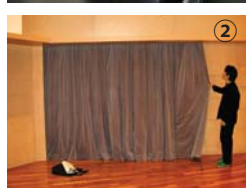
①手前のフローリングはプレイルーム。正面には、事務室をはさんで畳敷きの部屋がふたつ。天井に見えるレールのところで二部屋に仕切れる。②③打瀬1丁目公園の側からピロティを見る。床にはところどころに、タイルの破片を貼り込んで作った絵が埋め込んである。市内の障害者施設に通う子どもが手がけたものという。



①



④

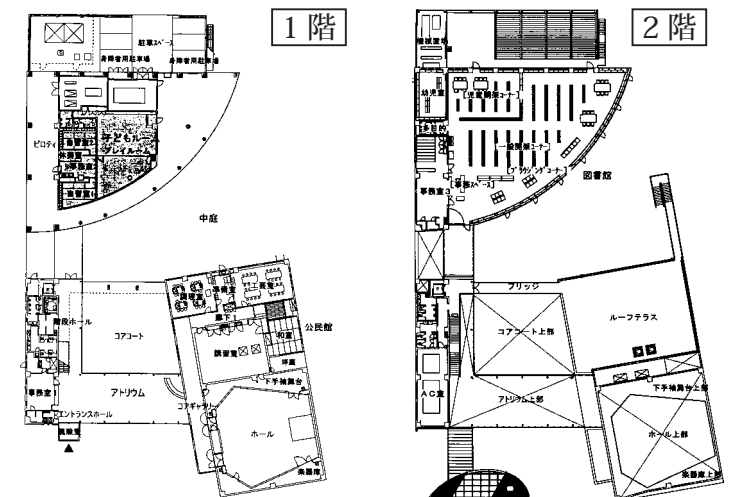


②



③

①ホールは音の響きを考えて、平面は六角形に、壁・天井面は複雑に折れ曲がった仕上げに。仕上げ材として用いたシナベニアの目地幅も一様でないほど。②左右の壁に取り付けたカーテンを手で開け閉めすることで音の響き具合を調整できる仕組み。③舞台の広さは3.6m四方。広げるときは、補助舞台（2.4×1.2m）を両脇に3台ずつ付ける。④調理室には三口コンロ付き調理台が4台。屋外にすぐ出られるのいい。



ベイトウン・コア命名者に聞く
「交流・文化の中心」との意を込めて
三好 秀子さん（磯辺在住）

「ベイトウン・コア」という名前は、一つには、言いやすさとか響きのよさからそう付けました。住民のコミュニケーションや文化活動の中心の役割との意味も込めました。

市の広報で比較的大きく、二つの公共施設の愛称を公募することが出ていました。うち一つの施設は場所が遠くてなじみがなかったのですが、コアのほうは場所が近いし親しみがあったので応募することにしました。

これまで、図書館は高洲のを、公民館は磯辺のを利用してきましたが、コアができればどちらも近くなります。近くに立派な施設ができて、うれしいですね。（談）

打瀬1丁目1番地を探せ！

先月号のクイズで、「打瀬1丁目1番地はパティオス1番街、○か×か？」という問題を出し、答えは「×」（1番街は2丁目4番地です）。では、「打瀬1丁目1番地はどこなんだ？」と探すことにした。

さほど広い範囲でもなし、「住居表示」を見ながら探せばすぐ見つかるかとタカをくくって出かけてみた。ところが、他の街では電柱や表札などにうるさいほど目に飛び込んでくる「住居表示」がベイタウンではほとんど見あたらない。途方にくれていると「あ、あ、あった！（ちょっと大げさ）」。

目線をかなり上にすると、3番街の外壁に濃紺のプレートに「美浜プロムナード 打瀬2丁目5番地」の文字が見える。マンション外壁の2階あたりである。これじゃ、普通に歩いていたら気がつかない。

一度気がつくと、「打瀬北通り」「公園大通



り」「打瀬東通り」「富士見通り」というように通りの名前とともに「住居表示」のプレートがおもしろいように見つかる。これで問題解決と、プレートを頼りに歩き始めると、GPEの外壁に「打瀬北通り 打瀬2丁目1番地」の文字。プロムナードを渡ったCPWは「打瀬1丁目2番地」。「このまま通り沿いに行けば、1丁目1番地にぶつかるはず」。意気揚々と交差点まで下って来た。まだCPEは「1丁目2番地」の表示。このあたりがあやしいが、見渡せば「清水建設の事務所」、打瀬小横の「打瀬第1公園」、美浜消防署があるのみ。早くも頼りの「住居表示」は見あたらない。

「もう、人に聞くしかない！」と唯一人の気配のする消防署の玄関横の受付窓口を訪ねることに。「実は打瀬1丁目1番地を探しているんです？」とのたまわる突然のあやしげな訪問者にイヤな顔ひとつ見せず「地図で説明しますから、玄関から入っていらっしやい」と、なんとも親切な対応。

「お尋ねの打瀬1丁目1番地は、ここを含めて、ガソリンスタンドとクリーンセンター、清水建設(1-1-5)がそうです。まだ何もなかったときに最初に、この消防署とクリーンセンターができたので、必然的に住所も1丁目1番地に。それから、2丁目に建物が出来はじめて番地が整備され…1丁目、3丁目というように建物の建設に合わせて番地ができてきたわけです」

ここが
打瀬1丁目1番地だ！



なるほど、埋め立て地のベイタウンは開発と同時に進行で「住居表示」が整備されてきたわけか。消防署の方はさすが仕事柄「住居表示」には詳しい！と感心していると、「よく道を訊かれるんです」とのこと。ベイタウン内を迷走している人が多いらしい。

今回「住居表示」を探して歩いてみて、消防署と小学校の間の通りが「白帆通り」であることを初めて知った。なかなかオシャレな名前だが、意外と普及していない。せめて自分の好きな通りの名前だけでも覚えてみてはどうだろう。【佐藤】



「マダムの会」「コマダムの会」「おやじ会」誕生 21番街ウェルカムパーティー

21番街が盛り上がっている。入居後間もないというのに住民の半数もが集まるほどのウェルカムパーティーが開かれた。コミュニティ活動も盛んで、もういくつものサークルが立ち上がっているらしい。海の近くで新しいベイタウン文化がはじまっている。【取材と記事：北村（21番街）】

入居開始二ヵ月後の2月16日（土）、パティオス21番街ウェルカムパーティーが開催されました。大人152名、子供80名が「はじめまして！」と中庭のコミュニティープラザに大集合。

事前の開催準備は有志による実行委員会が進めていきました。掲示板、ホームページ、全戸ポスティングによる告知。「お茶しよ！」という気軽な親睦会という趣旨で参加者を募ったところ、予想を上回る申し込み数にスタッフ一同うれしい悲鳴!! 大量の買出しと会場設営、受付準備に奔走することとなりました。晴天にも恵まれたパーティー当日、ビールサーバーも運び込まれて準備完了。昼食を済ませた住人が続々と中庭に集まってきます。スタッフがてきぱきと受付をし、事前に印刷された部屋番号入りの名札が手渡されていきます。高木みつ子理事長による開会宣言後はコップ片手にフリータイム。いつもは寒さのためあまり人のいない中庭を大勢の子供達が駆け回り、ウッドデッキの上はおしゃべりの花咲くオープンカフェとなりました。「初めて住人の方とお話できました」と新婚共働

きカップル。ナイスミドルご夫妻は「子供が大きくなってしまい子供を通してのお付き合いがなかったので、こういう機会があってよかったです」とご満悦。妊婦さん、新米ママは同類を見つけてニコリ。子育て真っ最中の奥様方はさまざまな情報交換。生ビール原価販売が進むにつれて男性陣も話が弾み、たくさんの輪が広がっていきました。

ところで、この実行委員会はどこから降ってわいたのでしょうか？ 答えは21番街ホームページの存在にあります。HPオーナーの長谷川均氏がお嬢さんの幼稚園情報が欲しくて始めたページ、そこに同じ番街購入者が少しずつ参加し、入居前から情報交換を通して住みよい集合住

宅をそれぞれが考え始めました。入居後は全戸ブロードバンド対応であったことでますますホームページへのアクセスが増え、速いスピードでのご近所付き合いがスムーズに進んでいったのです。「飲めればしあわせ！」の『おやじ会』、優雅にベイタウンライフを楽しむ『マダムの会』、子供を中心に楽しむ『コマダムの会』、趣味を楽しむ各種サークル活動など21番街での生活を楽しもうという人たちがネットを通じて集まり始めています。

パソコン接続していない方や、気が弱くて書き込みできない方のなかにも、ご近所付き合いを望む方は多く、今回のウェルカムパーティーは素敵なきっかけになりました。大人も子供も『ご近所さん』との新しい出会いを満喫し、有意義な一日を過ごしました。



書かれた設計図 200 枚以上、作成されたイメージ模型の数は把握不能！住民と会合を重ねること数十回・・・、たとえば、ほぼ丸二年コア建設のために傾けた情熱が伝わるだろうか。

ベイタウン・コア設計者、高谷さんは四国香川県の港町高松の小さな電気店に生まれた。高校卒業まで四国で過ごし、東京には東大理科Ⅰ類に入学以来住んでいる。

「小さいときはどんな子どもでしたか？」と質問をしても、「いや～ほとんど特徴の無い平凡な子どもでした」と話にのってくれない。70 年代の東大はピークが過ぎたとは言え大学紛争の時代。ロックアウトされた建物や再開されない授業も多かった。入学当初は漠然と工学部を目指し、最初から建築を志したわけではないが、デザインの楽しさを知り、建築が自分に向いていると思ったという。

大学の時の担当教官で、現在は東大名誉教授の大谷幸夫氏は「中庭を囲んだ建物が設計の原型」が持論。高谷さんは、「私がベイタウンで仕事をするようになったのは偶然ですが、結果的に大谷先生が主張されていた建築を具現している街で働くことになり、何か縁を感じます」と言っている。大学卒業後、幕張メッセを設計した槇文彦氏の事務所に入り 13 年の間建築、都市に関する全般を経験、89 年に独立して現在に至っている。

今回、コアの設計者の選出にあたっては、プロポーザルコンペという形がとられた。高谷さんの記憶では、建築家選定の基準は 40 代以下で、ベイタウンでの設計にかかわったことのない人の中から推薦され、

1. 幕張ベイタウンという街を設計者としてどう評価するか？

2. コアの設計にどういう方針で臨むか？

という質問にそれぞれ A4 用紙 2～3 枚の範囲で答えるよう求められたと言う。

ベイタウンらしいコアの設計を目指す中でこだわった点は、「ベイタウンに作る公共施設である以上、沿道中庭型を守りながら開放的なものを作ること」。その結果としてコアと 12 番街側の公園とに連続性を持たせ一体感を図った。また図書館・子どもルーム・工作室や調理室などを使用しているときにも、常に周りが見え、かつ見られるように気を配った。

「コアには必要最小限のもの + α を求めたい」と最初の設計の段階から思っていたが、「普段と違うちょっと晴れの日、新しい出会いや体験が出来、交流が深められる期待がもてるスペースとして、街の方々に楽しみながら活用して欲しい」そうだ。

高谷さんは、設計とは設計者のイメージを図面に表現する作業だが、それは「発明」ではなく、使う人たちの考え方や目的・用途などのいろいろな事の積み重ねによる「発見」であると考え、その方法論として、面積や街並み、スペースと品質、使い勝手の整合性を住民との話し合いの中で解決しようとしたという。

この住民主導による行政や設計者との話し合いは、今後の公共建築のあり方のひとつの方向性を示すという意味で「ベイタウンモデル」と呼べるだろう。

現在は調布市の東京スタジアムの歓声が聞こえるほど近い場所にお住まいだが、以前からの活動で、「府中建築文化フォーラム」という街づくりに関する集いに参加している。

「ホールの音は満足できる水準に仕上がりましたか？」と聞くと、にっこり笑って「はい！」と力強く返事をしてくれた。

【取材と記事：金／写真：松村】



グランパティオスがこの夏

100メガに!!

幕張ベイタウンの
超光速インターネット環境
の実現に向けて...

グランパティオスのご加入希望者のお客さま、
パティオス街管理組合のお客さまのお問い合わせは
株式会社ニューラルネット東京本社まで

<http://www.neural-net.co.jp>

TEL:03-5782-7721 FAX:03-5782-7723



▲ 図書館とホール棟をつなぐブリッジ
高谷さんは、コアがオープンしたらここで海を眺めながらビールを飲むのが夢だという。「公民館の人が見たら堅いこと言うかもしれないから、ニューヨークの浮浪者のように紙袋に缶ビール入れて乾杯しましょう！」と約束をした。

B

-

I

n

f

o

r

m

a

t

i

o

n

神田外語大学 聴講生とキッズクラブ募集のお知らせ

神田外語大学では平成 14 年度前期・通年科目の聴講生を募集しています。聴講生は一般の学生と共に授業を受け、図書館で本を借り、メディアプラザで最新のパソコンを利用することができます。

授業はすべて、初回を「聴講トライアル期間」とし、実際に 1 度授業を受けてみてから最終的に受講希望の意思を決定できます。聴講トライアル申込期間：平成 14 年 3 月 18 日（月）～ 3 月 30 日（土）興味のある方、募集要項が欲しい方は、ぜひ下記までお問合せください。

神田外語大学 教務 2 課 聴講生係
TEL：043-273-1320 FAX：043-273-1197
e-mail：kyomuni@kanda.kuis.ac.jp
神田外語キッズクラブ

（神田外語大学、神田外語学院と同じグループの児童英語教室）
「話せる英語を楽しく学ぼう。」
英語に親しむ、だけではもう遅い。
体系的に出来ている「教材で、効果的に」英語を習得しましょう。
無料体験レッスン 3 月 2 8 日（木）1 1 時より、神田外語大学にて
募集対象：3 歳～ 12 歳の児童
問い合わせ先（申込み先）：神田外語キッズクラブ（TEL:03-3252-3340）

パティオス 20 番街オープン！

ベイタウンで 4 番目の公団賃貸住宅、「パティオス 20 番街」がオープンし、いよいよこの 3 月から入居が始まります。

20 番街は総戸数 189 戸で、昨年 11 月に 1 次募集として 88 戸の募集を行い、メッセ大通りより海側における初めての公団賃貸街区として皆様にご好評をいただいたものです。

この街区の特徴は、何とんでも高速インターネット。

ベイタウンの公団街区では初めて住棟内 LAN が標準装備されており、高速インターネット常時接続サービスが毎月 1,750 円※（税別、プロバイダー接続料・通信料を含む）でご利用になります。

公団では、国の e-JAPAN 戦略に基づき、今後新規に募集する住宅において、高速インターネット配線を標準装備することとなっており、今回の 20 番街もその一環となるものです。

公団の賃貸住宅で、快適な環境のブロードバンド生活はいかがでしょうか。

なお、20 番街の残りの住宅については今年 6 月頃に募集を行い、8 月末頃の入居となる予定となっております。

※ 料金は変更される場合があります。



賃貸住宅のお問い合わせは
総合募集センター津田沼案内所
TEL：047-478-3711
公団住宅の駐車場のお問い合わせは
日本総合住生活（株）千葉支店

都市公団

図書館の開館と利用カードの事前登録

図書館の開館は 4/2（火）ですが、事前に「利用カードの事前登録」と「展示コーナーのみの開放」を行います。

日時：3/26～29 日いずれも午前 10 時から午後 4 時

*利用カードの登録には、住所が確認できるもの（免許証など）が必要です。

幕張ベイタウン・コアの公民館でのサークル活動の施設使用受付

各サークルの公民館使用の申し込み受付が、3/9 日（時間未定）コアで行われます。

問い合わせ先：石井（稲浜公民館 TEL:247-8555）

コアの音響・照明についての講習会

3/9 日（土）午後 1 時から、コアホール

企業庁、公民館、建設業者、音響・照明会社の方々が教えてくれます。誰でも参加できます。関心のある方、開館イベント委員会各部会の方はぜひ。

■普段、学校に縁のない私が打瀬小の「特別クラブ」を手伝いに行ってきました。よく言えば自由、悪く言えば雑然とした雰囲気の中で様々なクラブが行われており、その一つ「新聞づくり」では短い時間でしたが、子どもたちは街に出て取材や撮影を体験し、それを新聞に表現することを楽しみました。同行した私も小学校 4 年生の視線で街を見るという新鮮な体験ができ、思わぬ面白い時間を共有することができました。これも、ベイタウンに住んでいるからこそ。

佐藤則子（#3-310/T&F211-0090）

■コアで思い出すのは、郵便局。もともと特定郵便局をコアの中に入れる計画だったのが、いつのころからか、マンション 1 階にテナントで入れる方向に切り替わりました。その後、どうなのでしょう。小泉政権下で特定郵便局がやり玉にあがっている以上、ベイタウンへの新設はむずかしいと考えざるを得ないのでしょうね、きっと。とほほほ。

茂木俊輔（#7-305/T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp）

■コアという言葉初めて聞いたのは今から 6 年程前の企業庁との会議席上だった。コア（核）は、文字通りベイタウンの核として街の発展の中心になるという説明だったが、ベイタウンはハード（建物）の核ぬきでも、ソフト（人的資源）だけで立派にコミュニティを形成してきた。コミュニティ・コアの活動に関わった全ての住民の力なしでは、今の時代にこれほど素晴らしいことを成し得ることはできなかっただろうと思いつくと感無量である。

金 一剛（#3-220/T&F211-0388/ikkim@xa2.so-net.ne.jp）

■設計者が来られる“コア取材”楽しみにしていたのですが、中学校の役員会と重なり、役員会の方に出席しました。学校の方も、あと一か月で完全週五日制。熟慮断行しなくてはならないことが、役員たちの間にもたくさんあります。また、この役員会は“打瀬小パティオスの会（PTA のような、教職員の方々と保護者の会）”という名前です。「打瀬中学校も中庭を囲んだ建物である」ことから名付けられました。新しい住人の方々から「どうしてパティオスの会なの？別の建物に住んでいると、疎外感感じちゃう」と聞いたこともあります。そのような理由で“パティオスの会”なのです。コアが出来たことで、また街に中庭がひとつ増えました。記者：# 公園東 浜田貴代子（atmark@pop01.odn.ne.jp）

■先月、機械の故障でコンピュータの通信回線が平日ほど止まったことがあった。土曜の午後だったが、外部との通信ができずに困ってしまっただけ。ベイタウンニュースの原稿のやりとりも、親しい友人との打ち合わせも、最近毎日洪水のように流れてくるコア関係のお知らせメールも全く来ない。今までならメールが来なければ忙しさから解放されて、とても安らかな気分になったものだが、今回は違った。自分ひとりがベイタウンの時々刻々と変化する激しい週末の動きの中で取り残されているのではない。そんな不安にさいなまれ、あちこち電話をする始末だった。今や僕の生活は IT でがんじがらめだ。若い頃はボヘミアンにあこがれたのに。松村守康（#10-612/T&F211-6853/mmatz@m2.pbc.ne.jp）